

コミック「廃貴物」第1集から

# ごみ風刺漫画 40年後のリサイクル

## 「私たちは貴重なものを捨てながら生きている」

京大名誉教授、自作の漫画を復刻



「私たちが、実は貴重なものを捨てながら生きているのではないか」との思いを込めた。

単行本化して第9集まで刊行しているが、読者からの要望もあり、86年に出した第1集を復刻した。

雨傘が安価な使い捨てになり、ごみ問題を引き起こす様子や、ごみを目の前から見えなくすることで、かえって問題が深刻化する実態などが描かれている。資源を浪費する親たちを、子どもたちが心配そうに見つめる作品もある。

高月さんは「40年近く前の作品でも現在に通じるものが多いということが、地球環境や廃棄物問題の深刻さを表していると感じました」と話す。

復刻本は送料込み1200円。問い合わせは高月さんメール(higimoon@takat.suki@gmail.com)へ。

また、「ホームページ」「ハイムーン工房」(http://higimoonkobo.net/)にも過去の作品を掲載。「温暖化」「食品ロス」「コロナ禍」など10項目に分け、研究者の立場から解説文も付けた電子マンガ本を公表している。(編集委員・永井晴)

ごみ問題に研究者として取り組みかたわら、環境をテーマにした漫画を発表してきた京都市立大学教授の高月敏さん(80)が、1980年代前半に描いた作品集を復刻出版した。地球環境や生活習慣をめぐる当時の風刺は、40年近くを経た今も色あせていない。高月さんは環境保全工学が専門。家庭や事業所から排出されるごみの組成を調べ、市民の暮らしと環境の関わりを探ってきた。

一方、学生時代は美術部に在籍し、大学院生だった66年には漫画作品を初めて自费出版した。姓をもじった「ハイムーン」の筆名で、環境にまつわる漫画を描き、日本漫画家協会にも所属している。

京大の助教だった82年から、専門誌の「月刊廃棄物」(日報ビジネス刊)に、「コマ漫画を毎回2作品ずつ発表してきた。今も連載中で、今年1月号で472回に達した。

タイトルは「コミック『廃

